

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (252)

つれあい

子どもたちが寝静まったあと、タモツ君のお父さんがお母さんと話しています。

「敬語はだんだんと敬意が低下していくというのがふつうだけど、自分の妻をいうさいくん細君が
ひと他人の妻をいうのにも使われるようになるなんて、おもしろいよね。」

「きさま貴様とかお前とかが親しい間柄でしか使われなくなったのとは、マギャクだもんね。」

「へえ、あなたもマギャクなんてことば、使うんだ。」

「もう流行おくれよね。そうそう、保夫さんは私のことを愚妻とは言わないって言ったけど、
会社などで言うときにはどうしているの。」

「僕らの世代では、「つま妻」というのがふつうかな。僕は「つれあい」って言う。」

「私も同じ。「主人」とは言わない。前に「うちの人」と言ったこともあったけど、今は「つ
れあい」。短大のときの先輩のご主人は、先輩のことを「かない家内」って言うんだって。」

自分の夫=主人、うちの人

自分の妻=愚妻、小妻、荊妻
つれあい、家内



【編集部注】『広辞苑 第六版』に、貴様については、〈(近世中期までは目上の相手に対する敬称。以後は同輩または同輩以下に対して男子が用い、また相手をののしっていう語ともなる) 貴公。おまえ。きみ。〉とあり、お前については、〈(二人称) もとは目上を、今は主に男性が同等あるいは目下を指す。〉とあります。